

第7回 参考資料 性被害者が被害認識にかかった期間について

目白大学心理学部心理カウンセリング学科 専任講師 齋藤梓

【「望まない性交」の経験後の被害認識について】

以下のデータは、「性被害者の援助要請行動に関する研究」(日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) (研究代表者: 齋藤梓)) を使用して実施した調査のうち、「性暴力被害の実際—被害はどのように起き、どう回復するのか (齋藤梓=大竹裕子, 金剛出版, 2020)」にまとめたインタビュー調査から示した。なお、本資料の作成に当たっては、元データを参照し、書籍にまとめたものよりも、詳細な結果を示した。

●方法

対象: WEB サイト, SNS 広報等を通じて協力が得られた 31 名の「望まない性交」を経験した女性

調査内容: 「望まない性交」経験が起きたプロセスおよびその後の状態や回復について、インタビュー調査, および質的分析により明らかにした。

●被害認識

以下は、インタビューで語られた「望まない性交」経験 (31 名, 41 件) について「性被害」だと認識するまでにかかった年数である。

被害認識にかかった年数	被害時・未成年	被害時・成人	計
出来事直後	3 件 (1 件)	3 件 (2 件)	6 件 (3 件)
1 年未満	3 件 (2 件)	5 件 (2 件)	8 件 (4 件)
1 年以上 5 年未満	3 件 (1 件)	6 件 (0 件)	9 件 (1 件)
5 年以上 10 年未満	3 件 (1 件)	1 件 (0 件)	4 件 (1 件)
10 年以上	9 件 (2 件)		9 件 (2 件)
被害だと思いきれない/不明	1 件 (0 件)	4 件 (0 件)	5 件 (0 件)

() 内は加害者が見知らぬ人だった件数 (内数)

・サンプル数が少なく、またランダムな対象に調査をしていないため、結果を一般化することは限界がある。しかし少なくとも、被害時に未成年であった場合には被害の認識に 10 年以上かかっている場合も多かった。また、たとえ被害時に成人していたとしても 1 年以上かかることが多く、5 年以上かかる場合もあった。加害者が見知った人である場合には、インタビュー回答時にさえ被害だと思いきることが難しい場合もあった。

・この調査では、41 件中 36 件は、出来事について何らかの形で他者に打ち明けていた。しかし出来事後すぐに誰かに話したのは 7 件で、うち 3 件は被害中に誰かが助けに入った場合だった。29 件は、誰かに被害を打ち明けるまで数週間から数十年かかっていた。